

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	太陽の子 羽沢保育園
施設所在地	東京都練馬区羽沢2-20-20
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

生き物

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

例年園周辺のダンゴムシ虫やカブトムシなどの生き物を捕まえ育てているので、そこからさらに興味関心を深めていけたらと思いテーマを設定した。住宅街の中の園であるため、子どもたちが見たことない生き物を知ったり自然を感じたりする機会を設けたい。その中で、命を大切にす気持ちや自分たち以外の生き物の存在を感じて欲しい。

## 2. 活動スケジュール

【今年度前より生き物が好きな様子があった】

R7.3～

二年連続で年長児はお別れ遠足で動物園に行っていた。また園周辺の生き物を飼育したり(カナヘビや虫など)家庭から園でも飼育しないかと持ってきてくれたり(カブトムシ)と、日常的に生き物への関心が要素があった。そこから興味関心が高まっているのを感じる。子ども達の気持ちをさらに深め、活動として広げていけると今年は生き物をテーマに設定し、園児とスタッフでどんな活動をしたいか話し合いをした。

【テーマ：『海』の活動】

R7.7～

5歳児クラスが子ども会議で夏祭りのテーマについて話し合い、【海の世界】【竜宮城】に決まる。魚やタコなど、海の生き物をテーマに製作が始まる。5歳児クラスに影響され、4歳児クラス、3歳児クラスと下の学年に浸透し最終的に全クラス海の世界の生き物を製作する。

【カナヘビを観察する】

R7.8～

園の周辺を探索してカナヘビをスタッフが見つかる。玄関先のカウンターに飼育箱を置いて飼育する。飼育したカナヘビは全クラスで観察する。

【絵本の世界から始まる動物なりきりごっこ】

R7.9～

観察・絵本で知識を深めることで動物なりきりごっこ遊びが4歳児に広がっていく。3歳児クラスでも絵本のねこピッツァを読んで猫への興味が広がり、猫のごっこ遊びが広がっていく。

【ものづくりに広がる】

R7.11～R8.1

すくわくプログラム音の企画である“沖縄フェス”の準備をしている中で、美ら海水族館のことを知り、沖縄の海の生き物に興味を持ち、調べ始める。図鑑やネットの動画などで水族館の生き物などを調べていくなかで、マンタとジンベイザメに関心を持ったことから海の生き物の制作が始まる。マンタづくり、ジンベイサメづくり、シーサーづくり

まとめ 乳児クラスの子どもたちは幼児の作った海の生き物を見学し、

幼児クラスが作った水族館・海の生き物を乳児クラスの子どもたちを幼児クラスに招待し見せもらう。その後園内水族館の活動に、乳児クラスも簡単な製作で参加し、園全体が関わる製作となった。

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・生き物に関する絵本や図鑑の充実・子どもたちが見られる環境での飼育
- ・観察しやすい環境・道具の準備（虫眼鏡・飼育ケース等）
- ・生き物に関する製作やごっこ遊びが展開できるよう廃材や製作ができる環境を用意しておく

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

###### 【子どもの興味からテーマを設定する】

二年連続で年長児はお別れ遠足で動物園に行っていた。また園周辺の生き物を飼育したり(カナヘビや虫など)家庭から園でも飼育しないかと持ってきてくれたり(カブトムシ)と、日常的に生き物への関心が要素があったため、生き物をテーマに設定した。

###### 【カナヘビを観察する】

- ・カナヘビ飼育、餌やりの観察・餌探し(虫) (主に1歳児)
- ・絵本『カナヘビ』を読み、カナヘビの生態を知る

###### 【テーマ：『海』の活動】

・海の生き物が好きで夏祭り(7/25)のテーマを"海・竜宮城"にしたいとお祭りの準備やおみこしを製作する

- ・R7.11/21"沖縄フェス"に向け美ら海水族館に興味を持ち調べ始める(5歳児)

マンタとジンベイザメについて話をする子どもがいた。その話を聞いて、マンタとジンベイザメについて調べたい、ということで図鑑を見たり、動画を見て調べ物をする。

→活動が生き物の再現の製作に広がる

- ・11月後半 園内を水族館にするため、図鑑で調べたり製作を行う
- ・乳児クラスに製作を見せるため幼児クラスに招待し、製作を発表する

###### 【ものづくりに広がる】

- ・12月後半 4歳児も園内水族館作りに参加する(くじら・クラゲ中心)
- ・乳児クラスも、簡単な製作(海の色・お魚)を日々の保育の活動に取り入れる

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・カナヘビ飼育、餌やりの観察・餌探し(虫) (主に1歳児)

最初は生き物が苦手な児もいたが、毎日観察にくる中で大人が餌をあげたり、友だちがカナヘビに触れる姿を見て徐々に興味を持っていた。

秋になり寒くなったので、"冬眠"について説明すると生き物の生態について疑問が不思議を感じていた。

- ・(5歳児 海の生き物)沖縄に行ったことのある児が、「水族館にいった」という話をしたことで美ら海水族館の動画を見る。そこに映っていた"ジンベイザメ・マンタ"に興味を持ち、自分たちで調べて作りたいと製作に繋がった。図鑑で柄を観察したり、どのように作ればいいのかを友だちと相談し合い完成させていた。マンタが日本で美ら海水族館とマクセルアクアパーク品川にしかない事を保護者からの話で知り、卒園遠足でみんなで見に行きたいと意見がでた。

また、作ったマンタとジンベイザメを泳がせるため、園内を水族館にしたいと製作が始まった。

・さらに、同じ保育室で過ごす4歳児も5歳児が製作する姿をみて、園内水族館計画に参加したいとなった。4歳児は4歳児で好きな海の生き物(クジラ・クラゲ)を見つけ、観察・製作が展開していった。

・元々猫が好きな児が多いクラス(3歳児)だったが、絵本『ねこピッツァ』から猫への興味広がる(3歳児)→猫ごっこ・猫に関する絵本購入

・散歩中見かけた猫を、帰園してから図鑑でどんな柄だったか探し、それ以降お散歩中の猫探しが子どもたちの中で広がる

- ・各々がなりたい猫を製作(耳やしっぽ)でつくり、猫のなりきり遊びが展開する



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき>

元々図鑑が好きな児が多く生き物にも興味をもっていたが、すくわくプログラムとして大人も生き物に焦点を当てて保育していくことで、より子どもたちの探求心が深まるのを感じられた。製作するにあたり、より本物に近づけようとしっかり観察したり、観察から新たな疑問や不思議に気づいたりする姿があった。また、夢中になり製作や日々の話題に上がる事で、その気持ちがクラスを超えて"知りたい・やってみたい"になって他児の探求心も刺激されていた。

当初の計画では、子どもたちが知らない生き物に出会うきっかけになればと思っていたが、保育の流れから子ども達自身から興味を持った生き物の生態や姿を詳しく調べていく形となった。教えられるのではなく、自らの興味を深めることでより熱心に探求していく姿がみられたので今後の保育にも活かしていきたい。また、クラスによって同じテーマでも異なった向き合い方(製作や同じ生き物の中でも色々な種類を調べるなど)をしていて、探求の仕方は一つではなく様々な方法があることを保育士も知る機会となった。

また、全園児対象としたことで、幼児が製作したものを乳児が見に行ったり、乳児も製作に参加し異年齢児の交流が生まれていた。

乳児クラスだけでは活動として広げることが難しい内容であっても、幼児からの刺激や共に活動することで、興味の幅が広がったのではないかと思う。今回は結果として年長児クラスが特に活動を深め、それが広がる形となったが、次年度以降は3・4歳児も主体的に今回抱いた動物への興味や別の好きな何かであっても、探求心と知る喜びや実現する楽しさを感じながら活動が展開していければと思う。そしてより活動の展開や広がりにつながる様にしていきたい。